

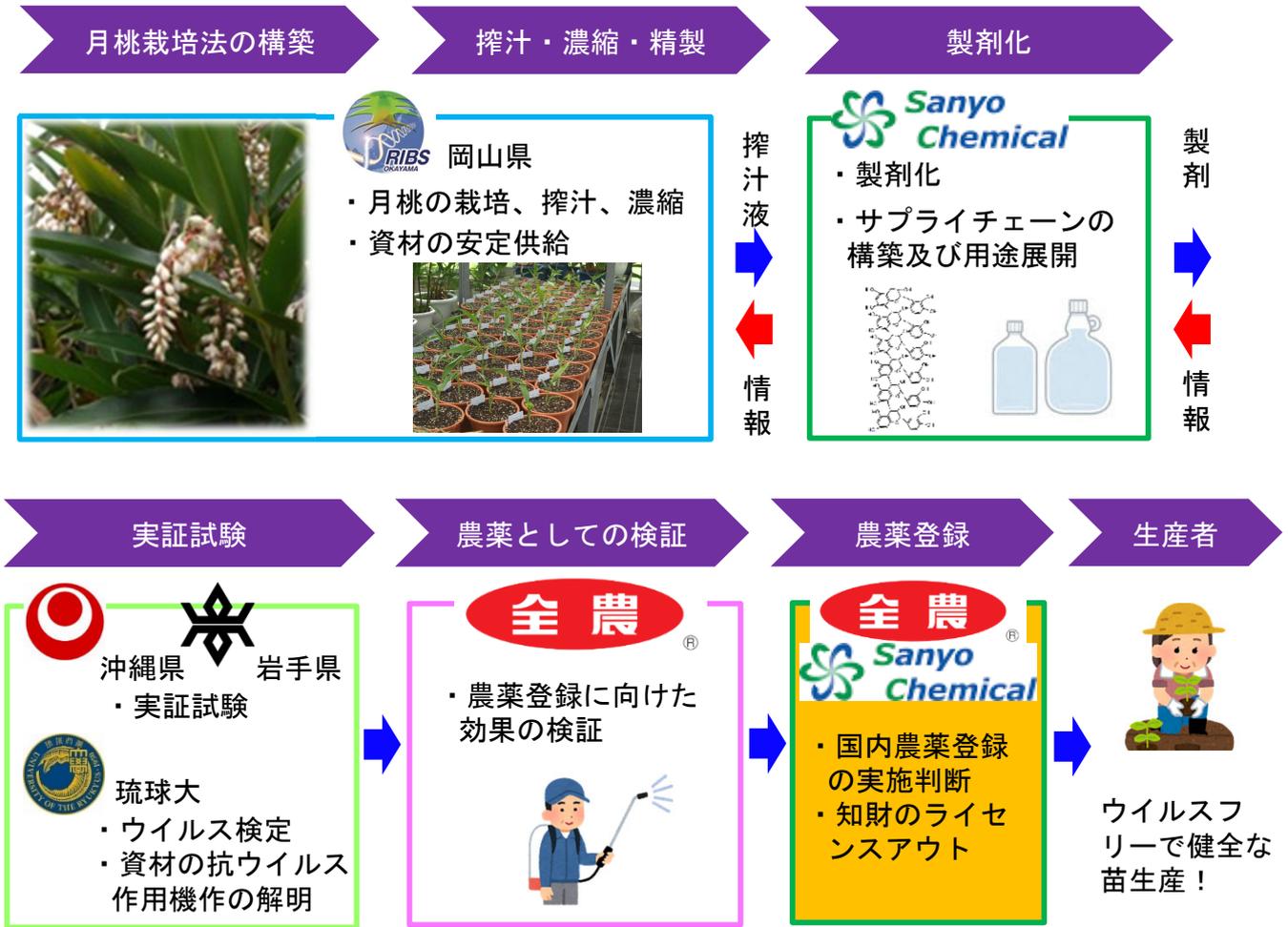
新たな農資源ゲットウを利用した新規抗植物ウイルス剤の創製

- 1 代表機関・研究統括者
岡山県農林水産総合センター 鳴坂 義弘
- 2 研究期間：令和5年度～令和7年度（3年間）
- 3 研究目的
月桃（ゲットウ）由来の抗植物ウイルス活性物質を利用して、育苗及び圃場栽培における作物のウイルス感染を防止する高機能な抗植物ウイルス剤を創製する。
- 4 研究内容及び実施体制
 - ① 月桃を原料とした抗ウイルス剤の開発
原料の安定供給体制を確立するとともに、農薬登録をめざす抗植物ウイルス剤の原体を開発する。
（岡山県農林水産総合センター）
 - ② ウリ科作物のウイルス病害における月桃資材の利用法の確立
ウリ科作物のウイルス病害に対する月桃資材の有効性評価及び処理法を確立するとともにその作用機作を明らかにする。
（沖縄県農業研究センター、琉球大学）
 - ③ PMMoV を中心とした接触伝染性ウイルス病害における月桃資材の利用法の確立
トウガラシ微斑ウイルス（PMMoV）に対する有効性評価及び処理法を確立する。
（岩手県農業研究センター）
 - ④ 新規抗ウイルス剤の開発に向けた月桃サプライチェーンの構築
抗植物ウイルス剤の原料となる月桃由来プロアントシアニジンのサプライチェーンの構築及び農業資材以外への用途展開による抗ウイルス製品を開発する。
（三洋化成工業株式会社）
 - ⑤ ナス科作物のウイルス病害における月桃資材の利用法の確立
ナス科作物のウイルス病に対する月桃資材の処理法を検討してその有効性を評価し、農薬としての使用法を策定する。
（全国農業協同組合連合会）
- 5 最終目標
各地域で問題になっている重要な植物ウイルス病に対して月桃由来プロアントシアニジンを含む抗植物ウイルス剤の防除効果を明らかにし、本剤の処理・利用法を確立する。
- 6 期待される効果・貢献
非可食性の月桃から抽出したプロアントシアニジンを主成分とした低リスクな抗植物ウイルス剤を実用化することで作物のウイルスの感染や被害を防止する。また、月桃資材のサプライチェーンの構築による南西諸島の産業振興に貢献する。

研究目的（背景）

植物ウイルスに対して直接的に防除効果を示す有効な農薬はないため、月桃由来の抗植物ウイルス活性物質を利用して、高機能な抗植物ウイルス剤を創製する。

研究内容（実施体制）



最終目標

月桃由来プロアントシアニジンを含む抗植物ウイルス剤のウイルス防除効果を明らかにし、本剤の処理・利用法を確立する。



期待される効果・貢献

- ・月桃由来プロアントシアニジンを含む抗植物ウイルス剤により作物のウイルスの感染や被害を防ぐ!
- ・月桃を南西諸島の新たな産業にする。